

「科学技術人材育成コンソーシアム」趣意書

科学技術創造立国を目指すわが国にとって、理工系人材は最重要の資産である。しかるに、昨今は、理数離れ・技術離れが深刻になっており、この状況を打破することが喫緊の課題である。この問題に対してはこれまで多方面で様々な取組みが行われているが、問題の根は深く、わが国の総力を挙げて取り組むべき課題であるといっても過言ではない。

このため、学会をはじめとして産業界や行政を含めた社会全体が連携してゆくことを促進する枠組みとして、次の役割を担うコンソーシアムを結成し、その活動を通じて理数・技術に対する関心を高め、優秀な科学技術人材を育成する基盤を構築し、あわせて技術と技術者の役割に対する国民の理解を深めることを目的とした活動を行う。

1. 情報交換

参加団体やその地方支部が行っている活動の情報をお互いに交換・議論する場を提供することによって、有効な活動の横方向の展開を図る。

2. 関係組織の共同活動（ネットワーク形成）の推進

活動組織間でネットワークを形成し、個々の団体では対応できない課題に共同して取り組むことを促進する場を提供する。

3. 新たな活動テーマの発掘

経験豊富な参加団体が議論を行う場を提供することによって、新しい課題や対応策を発掘できるようにする。

4. 問題の認識の浸透と社会への情報発信

産官学の多くの参加団体が共通の認識を育て、メディアの協力も得て成果を外部に発信することによって、この問題に対する社会の認識を深めることに貢献する。

5. 国の支援の窓口

コンソーシアム自身あるいはコンソーシアム参加団体の共同活動に対して国等の資金援助を受ける場合の窓口となる。

コンソーシアムの運営原則

1. 意思決定および事業遂行の場ではなく、情報交換および連絡・調整の場とする。
2. 成果は参加団体間で共有し、外部に対しても原則としてオープンにする。
3. 成果の活用は参加団体の自由とし、原則として制約独占はしない。
4. 事務局費用などコンソーシアムを維持する費用は平等に負担する。
5. 個々の参加団体の活動を尊重し、制約をしない。